

# いちげ 一夏会報

No.64



平成26年11月1日

発行：鶴見大学

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3

TEL.045-574-8622・3(ダイヤルイン)

http://www.tsurumi-u.ac.jp



鶴見大学学長  
伊藤 克子

## 読書について思うこと

例年のことですが、今年もまた大変暑い夏でした。暑さに加え異常な豪雨など、「極端気象」というようですが、年々地球が壊れていくことを実感させるような天候でした。そんな中、司書・司書補講習の受講生の皆さまは、連日の講習、本当にご苦労様でした。この講習の間は、大学会館もとても活気がありました。時間とともに、吸い込まれるように教室に入っていく、そのうしろ姿を、やはり目的がある人の姿勢は外にも表れるんだと感心しながら見送ったことでした。きつと今は、やり遂げたという満足感でいっぱいでしょう。

ところで最近、パソコンがあれば、本はなくても困らないという人や、ほとんど本は読まないという人が増えているなどという話を耳にすると、本を読む人と読まない人の分かれ道は、どこで決まるのか、とても不思議な気持ちになります。私自身は、今日読む本が手元にないと何だか不安ですし、できれば次に読む本も傍にないととても心穏やかにはいられません。私の父や母も、明治生まれと大正生まれなのに、とてもよく本を読む人でした。本を読む家庭の雰囲気、知らず知らずに私にも影響したのでしょうか。特に母は、今94歳ですが、いまだに2週間に1度は、妹に図書館に連れて行ってもらうつて、5冊ずつ本を借りていきます。残念ながら、目が悪くなつてしまい、最近は大活字本になったと嘆いています。夜寝る前の読書は、変わらぬ母の大きな楽しみです。

私についていえば、今よく行く図書館は、野毛の中央図書館で、ここでも15年ほどの付き合いになりました。その前は、自宅が本牧でしたので、一番近い中区青少年図書館が行きつけで、そこは20年以上通い続けた隠れ家のような存在でした。本牧在住の時期は、まさに私の子育ての期間と重なっており、ベビーカーを押したり、子どもを前の広場で遊ばせたりしながら母子で通った思い出があります。その子どもたちも独立し、私もマンション暮らしを選択してからは、最寄りの図書館が変わりましたが、相変わらず2週間に1度、本を借りに行く生活は変わりません。1度に6冊借りますので、結構な重さになります。トレーニングと称し、リュックを背負って歩きます。

また、本は買って読む人、借りて読む人がいるでしょうが、私は、マンション暮らしを選んだ時点で、買って読むことはほぼあきらめました。今は全面的な図書館派ですので、保管場所に困ることはなくなり、順番待ちという点が少し難点です。村上春樹の『1Q84』は、4年も待つて、ようやく書架に並びましたが、こんな時に備えて別ルートも確保しておかなければなりません。読みたい本を読みたい時に読むには、いろいろな奥の手が必要なのです。

図書館に行くたびに、一生どころか何生かかっても読み切れないほどの本の棚を眺め、大図書館がバックにあることの贅沢をかみしめています。

## 司書・司書補講習

### 六十周年記念の年の講習を終えて



鶴見大学司書・司書補講習  
主任教授

原田 智子

れる『記念誌』に、是非その後の皆様のご様子を、ご寄稿いただければ、またそれが皆様の後輩の方々に「図書館学の鶴見大学」の伝統が継承されていくことになると思います。

この六十年間に、図書館法施行規則による科目の改正は、司書補が一回、司書が三回行われています。この夏、司書講習を受講された皆様が学習したカリキュラムは、平成二十四（二〇一二年）から施行されている最新の学習内容になっています。

話が変わりますが、この夏私はIFLA（世界図書館連盟）が開催する国際会議に参加する機会を得て、フランスのリヨンに行ってきました。本講習の講師の先生も私の他六人が参加されました。世界中から図書館員や図書館情報学の教員など約四千人が会議に参加しました。会議への参加の他、フランスの図書館を見学する機会も得ました。図書館見学の中で最も期待していたのがパリにあるフランス国立図書館でした。広い敷地の四隅に、本を開いた形をした総ガ

ラス張りの高層ビル四棟を配置したフランソワ・ミッテラン・ピブリオテークは、わが国の国立国会図書館関西館のモデルにもなったといわれる建物で、棟と棟を繋ぐ長い廊下と地下の閲覧室の広さは圧巻でした。リヨンでは、国鉄やバスなどが発着するパールデュー駅近くの交差点の角にある市立中央図書館を訪れました。地下1階、地上5階建の非常に大きな公共図書館で、大勢の利用者で賑わっていました。一階の貸出カウンターと返却カウンターはどちらも長い列をなしており、ICタグ導入による自動貸出・自動返却は行われていませんでした。旧中央図書館であったサンジャン市立図書館は、歴史地区の入り口付近のサンジャン教会の建物にあります。見学した時、こちらも地域の図書館として利用者に親しまれていました。

最後に、受講生の皆様が、図書館や図書等に係る仕事で、さらにご活躍されますことを期待しています。

昭和二九（一九五四）年に開講した鶴見大学司書・司書補講習は、総持学園創立九十周年の今年、六十周年を迎えました。したがって、今年は一六一年目の司書・司書補講習となり、新たな一歩の年の始まりとなりました。その節目の年に受講された皆様は、この『夏会報』を読まれて、今夏の暑い時期に一生懸命取り組まれた講習の授業を懐かしく思い出されていらっしゃるのではないのでしょうか。

習する内容を、二箇月という非常に短期間で学ぶ講習では、強い学習意欲と精神力と体力が必要とされます。時間割スケジュールは、時間的制約から過酷なほどまでにびつしりと組まれていきます。講習生ご自身の努力はもちろんですが、ご家族のご理解やご協力、講習生同士の励ましあい等も大きな支えになったこととでしょう。司書・司書補の資格取得という明確な目標に向かって、充実した夏を過ごされたわけですが、同じ一夏に同じ目的に向かって頑張った仲間の絆も鶴見大学の講習生ということ、新た

なヒューマンネットワークが築かれたことと思います。この度、九月十三日の六十周年記念式典当日に発行されました『鶴見大学司書・司書補講習六十周年記念誌』には、皆様の先輩にあたる講習修了生の方々からのご寄稿が掲載されています。昔の講習の思い出など、その後の人生のことなど、いろいろと参考になることとでしょう。図書館界で活躍されている方の中には、先輩方の思い出の中に、時代は異なりますが皆様の将来の姿を見ることができると思います。将来の周年事業の際に発行さ



# 知識と「資格」とを結び付けて 活かすための判断のために



常磐大学  
助教  
田嶋 知宏

今年、鶴見大学の司書・司書補講習が開始されてから六十年になるのですが、そのような記念すべき年に講習を受けられた皆さんにとって、司書・司書補講習で過ごしたこの夏はいかがだったでしょうか。資格を取り、達成感を得た方もいれば、残念ながらやり残した方もいらっしゃると思います。いずれにしても、二カ月に及ぶ講習を乗り切ったという事実は実感として残っていると思います。

今回、皆さんは何を目的に司書講習を受講されたのでしょうか。私の場合には、司書講習ではな

く、大学の司書課程で司書資格を取得しましたが、なんとなく取得できる資格だから取っておこうという軽い気持ちからだったのを覚えています。後に、司書講師の側になるとは考えも及ばないことでしたが、その時学んだ知識やスキルは活かされていると思います。講習を受けられた皆さんは、軽い気持ちではなく、資格を取って図書館で働きたい、図書館での勤務に活かしたい、図書館でのボランティアに活かしたいなど何か目指すものがあったと思います。講習を終え、みなさんは目的に照らし、何か得るもの

があつたでしょうか。さて、この六十年で図書館も、講習で学ぶ内容も徐々に変化してきました。もちろん、変化しなかった部分もあります。図書館は資料や情報を扱うことを前提としている点、司書は資料や情報、そして、図書館という場を介して利用者を支援する存在である点などです。私が、司書講習で担当した「情報資源組織演習Ⅱ（分類）」で扱う分類や件の理論や方法は大きく変化していません。しかし、コピーカテゴリーが一般化した状況で司書が、分類や件名の知識をもち、活かす機会は確実に

変化しています。講習中にも話したことですが、分類や件名の知識は情報サービスを提供する際に、情報検索や利用者への案内に活かすことができるはずです。講習中は数日おきに科目が変わり、科目の間の繋がりや内容の繋がりをじっくりと見直す余裕がなかったかもしれません。講習を終えた今こそ、講習で学んだ内容の繋がりを再度、振り返って確認してみるのも良いかと思えます。

今回の講習で話したもうひとつのこととして、分類の仕方の基本は、ほかの図書館と一緒に細かいところでは異なるやり方をする図書館が存在するということです。利用者の状況や利便性を考慮し、司書が分類規程などの適用方法（範囲）の判断を行った結果から生じることです。資料の内容や形態を踏まえて行われる別置法も同じことがいえます。そのような説明を受けて、講習を受けた皆さんは、煩雑で、頭が混乱してしまいそうと感じた方もいたと思います。図書館利用者はさまざまな要望をもち、図書館に期待しています。その要望や期待について基礎的な知識やスキルに基づき、どのように対処すべきか判断できるチカラをもつことこそが、司書に求められているといえるでしょう。状況を判断するには、皆さんが取得した司書資格という基本を踏まえる必要があります。

残念ながら、司書資格を取得されても、正規の職員募集はそう多くない厳しい現実もあります。そうした中で、図書館にかかわる司書という職を目指そうという方は講習を通して得た知識やスキルをどう活かすのかを常に意識していただくと良いと思います。もちろん、講習で学び、身につけたたくさんさんの知識やスキルは司書という職に就くかどうかは別として、皆さんがこれからの人生での様々な判断を支えるものとなってくれるはずですよ。

大切なことは、講習で得た知識やスキルをどう活かすかということだと思います。皆さんが鶴見大学の司書・司書補講習を経て、どうなりたいのか―その目標に、この講習で身につけた知識と「資格」とを結び付け、活かそうという考えをもち、行動していくことを期待しています。



# 「旅するように学びたい」



明治大学 片岡 了 講師

よく人生は旅に例えられますが、いま「学び」を旅に例えて考えてみることにします。幸いに「旅」にまつわることわざがたくさんあります。まずよく知られたものとして「かわい子には旅をさせよ」を挙げてみましょう。わが子が愛おしいなら甘やかして育てるより、旅に出させて学ばせた方がよく育つと昔の人は考えていました。まだ交通手段が発達していない頃の旅は苦勞も多かったと思いますが、体験から得た学びがよく身になることを知っていました。今年の司書・司書補講習に参加

された方々は、すでに閉講式を終えています。長期にわたって講習期間を過ごす中で、専門領域の豊かな学びにとどまらず、何かと多くの事柄を体験されたことと思います。興味・関心のある講義ばかりではなかったはず。科目ごとに代わる講師との相性はどうか。講義ばかり続いて途中で嫌になり投げ出したくなったことはなかったでしょうか。長旅のようなひと夏の講習で味わった苦勞から学ぶこともたくさんあったと思われま

す。また、(旅は道づれ(世は情け)といひます。長く辛い道中に同行者がいると慰められたり励まされたりすることがあり(浮き沈みの多い世間)の中で人の情けに触れ心を動かされることもあります。一人旅もいいけれど、ともに旅する同好の友がいればなおありがたいところでしょうか。ところで、司書・司書補講習の中で私が担当する講義科目は「生涯学習概論」です。司書講習の場合、受講生が最初に学ぶ科目に当たります。受講生に向けて「最初から最後まで一人で学ぶのもいいですが、助けあう仲間がい

ればより楽しく学べます」と誘いかけながら、同じ目標を掲げる仲間とともに学びあう喜びを感じられるように、グループ討議の機会を提供しています。受講生の大半は社会経験の豊富な大人の方々であつて、簡単な自己紹介を終えらるるすぐに和やかに話しあうことができま

す。対応に少し難しそうなテーマであつても真剣に向きあい討議に参加しています。後で受講生に感想をうかがうと、グループ討議の時間が印象的で楽しかったという意見が多数寄せられてしま(と思つている)講義の方はどうだったのかと担当講師としては気になるところです。苦しみ(講義)があるからこそ楽しさ(討議)がより深まると思つて自らを慰めています。さいごに、(旅の恥はかき捨て)を挙げます。旅先では知りあいもないからどんな恥しいことをしてもその場限りで済ん

でしまい、気にすることはないというような意味です。やはり旅は気楽にしたいものです。旅先での解放感と同様に、学びの場においても失敗を恐れず何ごとにも気軽に挑戦していただきたいと思

います。受講生の中には昔の学校時代に戻って堅くなつている方もいます。最初のうちは講師の問いかけに教室内は静まり返つていますが、しだいに問いかけなくとも声が飛び交うようになります。そうなる(?)か

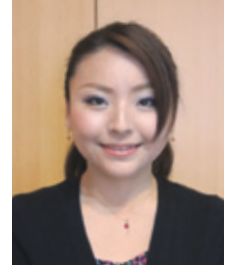
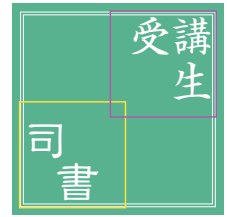
ら不思議です。たまたま講師が後で恥ずかしくなるようなことを口走つてしまつてもあります。講習を旅先と思えば、受講生は(講師も互いに)もつと恥をかきあう気持ちで臨めばいいのではないのでしょうか。だから「こんな質問して笑われるのではな

いか」「もし自分だけわからなかつたら恥ずかしい」などと思ひ悩まなくともよいと伝えるようにしています。勇気を出して学ぶ仲間を声にかけてみてくださ。講師をつかまえて訊いてください。そこから新しい学びがひらかれることを期待して

います。講習を終えられた方々には、学んだことをそれぞれの場や機会で見せながら活躍されることを祈念します。







### 敗者復活にかけた夏

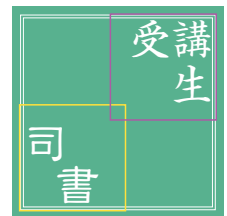
市田 さゆり

2013年はわたしにとって過酷な1年でした。仕事を辞めて挑んだものに失敗して目標を失い、挫折と敗北感から物事を前向きに捉えられず、赤ちゃん以上によく泣いた年でした。自分の進む道が分からないまま、就職先を決められずにいた今年の春、父の一言がそんなわたしを救ってくれました。「小さな頃から図書館が好きなお前に図書館司書は合っていると思うし、取得すれば来年開館する新しい図書館で働けるんじゃないか？」

ガラス美術館と複合施設になる予定の富山市立図書館本館にはより多くの利用者が訪れ、留学経験を活かして外国人利用者にも役立てるかもしれない、と想像すると心が弾み、もう一度だけ、挑戦してみようと自然に決

めることが出来ました。司書資格の無い状態では難しいと思いながらも講習開始前に公務員一次試験を受け、奇跡的に通過！事務室の方々と講習で出会えた友達に迷惑をかけながら、片道4時間をかけて日帰りで富山と神奈川を往復し二次、三次面接を受け、無事合格に至りました。

ガラス美術館と複合施設になる予定の富山市立図書館本館にはより多くの利用者が訪れ、留学経験を活かして外国人利用者にも役立てるかもしれない、と想像すると心が弾み、もう一度だけ、挑戦してみようと自然に決



### やらかしたひと夏

陳 建安

さて、一夏会報の原稿を頼まれた。これは困ったことである。なにかやらかしたからかもしれないが、思い当たるところがない。思えば受講の合格通知を頂いたことが、やらかしてしまったことの始まりかもしれない。人生とは、やらかしたことの積み重ねである。

さて、一夏会報の原稿を頼まれた。これは困ったことである。なにかやらかしたからかもしれないが、思い当たるところがない。思えば受講の合格通知を頂いたことが、やらかしてしまったことの始まりかもしれない。人生とは、やらかしたことの積み重ねである。

2か月間は長いようで短い。振り返ってみると、あつという間に過ぎていったが、充実していた。先生方は個性豊かで、授業を受けることが楽しくてたまらない。授業に真面目に取り組んだり、睡眠と戦ったり、試験であたふたしたり、レポートのために休日を潰したり、体調を崩したり元気がなくなったり、新しい知識を得て喜んだり、図書館についてあれこれ考えたつ楽しんだり、その他もろもろ、学生の時でもこれほど集中して勉強したのかというくらい勉強漬けだったのは、私だけではないはず。単位を落とすしていませんようにと願うのもまた、私だけではないはず。

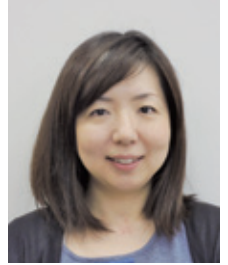
2か月間は長いようで短い。振り返ってみると、あつという間に過ぎていったが、充実していた。先生方は個性豊かで、授業を受けることが楽しくてたまらない。授業に真面目に取り組んだり、睡眠と戦ったり、試験であたふたしたり、レポートのために休日を潰したり、体調を崩したり元気がなくなったり、新しい知識を得て喜んだり、図書館についてあれこれ考えたつ楽しんだり、その他もろもろ、学生の時でもこれほど集中して勉強したのかというくらい勉強漬けだったのは、私だけではないはず。単位を落とすしていませんようにと願うのもまた、私だけではないはず。

最後は、願うならば図書館に関わって、より面白くしていきたいと思う。最後に、日々ご指導を頂いた先生方、親切にして頂いた事務の方、ともに学んだ仲間たち、毎朝挨拶を欠かさなかった警備の方、あと会館1階に鎮座し癒しをくれた「飛べません」ペンギンの像に感謝したい。おかげで最後まで頑張ることができた。学ぶ機会を頂きました。ありがとうございます。

最後は、願うならば図書館に関わって、より面白くしていきたいと思う。最後に、日々ご指導を頂いた先生方、親切にして頂いた事務の方、ともに学んだ仲間たち、毎朝挨拶を欠かさなかった警備の方、あと会館1階に鎮座し癒しをくれた「飛べません」ペンギンの像に感謝したい。おかげで最後まで頑張ることができた。学ぶ機会を頂きました。ありがとうございます。

講生 受

補司書



### 夏と図書館の縁に支えられ

佐藤 麻弥

私にとって、夏と図書館はとても縁の深いものがあります。数年前、た

ることができ、私にとって3回目の夏と図書館の縁になったのです。

またま見かけた地元図書館のホームページに臨時職員の募集が出ていて、応募して働き始めたのが夏でした。最初の一

めまぐるしく過ぎていく日々でしたが、毎日の授業の中で、今まで業務を行う上で漠然と知っていたことが、きちんと自分の知識として吸収される瞬間があり、「そういうことだったんだ!」と思えたことが何度となくありました。また、図書館の過去を学び、現在を

で働く過酷さを思い知らされたことを今でも覚えて

なにも代えられない大切なものとなりました。講師の先生方をはじめ、私たちを支えてく

ています。その後、任期満了で退職し、現在の図書館で働き始めた時もやはり夏からでした。

また、共に学んだ受講生の皆さん。毎朝教室に入りいつもの顔を

あれから数年、図書館で働く喜びや楽しさも知ることができ、利用者の方と接する機会が増える

も貴重な経験ができたと思えます。それもこれも、個人的でパワフルな講師の先生方のおかげです。

ほど、図書館の事についてきちんと学び、より正しいサービスを提供したいと考えるようになりま

した。そして今年、職場の協力もあって、鶴見大学の司書補講習を受講す

ることができ、私にとつて3回目の夏と図書館の縁になったのです。

あつという間に終わってしまつた今年の夏ですが、この講習で学んだことは、なにもものにも代えられない大切なものとなりました。

また、共に学んだ受講生の皆さん。毎朝教室に入りいつもの顔を

が頑張っているから私も頑張ろう、と元気をいただきました。本当にありがとうございます。

は図書館の裏話を交え、私たちの興味を掻き立て

て授業をしてくださいました。図書館の業務に戻った今も、これはあの時の授業で習ったことだ、と思いつつながら仕事をしています。

講生 受

補司書



### 『風薫る、明日への途』

狩野 智博

本棚から、講義で使ったファイルを手に取り見てみると、驚くほど鮮明に講習の日々が脳裏に蘇ります。実を言えば、私は図書館に対して全く無

関心でした。まだ春の頃、求職中で偶然に図書館と司書というものへ辿り着

き、興味を抱き調べていくと、私がそれまでに持っていた『読書好きと、学生のためだけの地味な施設である』というイメージが全くの偏見であると知り

ました。そして、講習を一緒に受けた皆様との出会いで得たものは、とても短い文章に収めることができず、勉強も息抜きも、正に一夏の思い出と言え

と知りませんでした。そして、私の知らなかった図書館の本当の姿が段々と見え

ていき、その行く末を見たい、関わりたい。と惹かれていったのです。

図書館界を本当に熟知した、図書館の歴史を作った先輩方から、講習で得た事を土台に更に自己研鑽して行きたいと思

かれています。そして、この経験を受け継ぐことができたからです。その事に感謝すると共に、移り変わる時代の中で取り残される事のないよう、講習

で得た事を土台に更に自己研鑽して行きたいと思

います。 鶴見大学の講習が、非

常には充実した一夏であったというのは、私だけではなく全員が感じている事だと思います。

先生方、事務の方々、本当にありがとうございます。

そして、講習を一緒に受けた皆様との出会いで得たものは、とても短い文章に収めることができず、勉強も息抜きも、正に一夏の思い出と言え

ました。そして、講習で得た事を土台に更に自己研鑽して行きたいと思

います。

鶴見大学の講習が、非

常に充実した一夏であったというのは、私だけではなく全員が感じている事だと思います。

先生方、事務の方々、本当にありがとうございます。

そして、講習を一緒に受けた皆様との出会いで得たものは、とても短い文章に収めることができず、勉強も息抜きも、正に一夏の思い出と言え

ました。そして、講習で得た事を土台に更に自己研鑽して行きたいと思

います。

鶴見大学の講習が、非

常に充実した一夏であったというのは、私だけではなく全員が感じている事だと思います。

先生方、事務の方々、本当にありがとうございます。

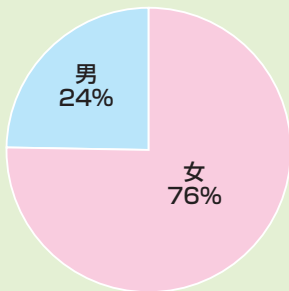
そして、講習を一緒に受けた皆様との出会いで得たものは、とても短い文章に収めることができず、勉強も息抜きも、正に一夏の思い出と言え

# アンケート

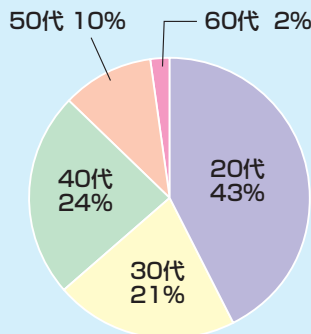
## ◆平成26年度司書講習アンケート集計結果◆

(回答数/受講数=107名/143名)

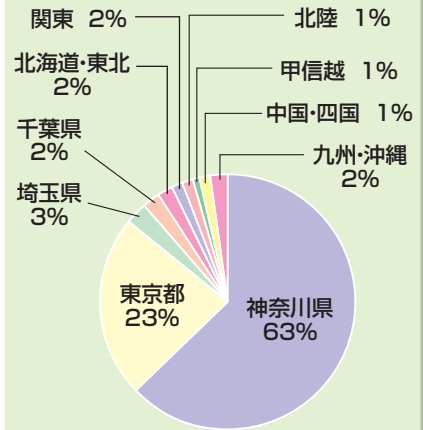
### 男女別データ



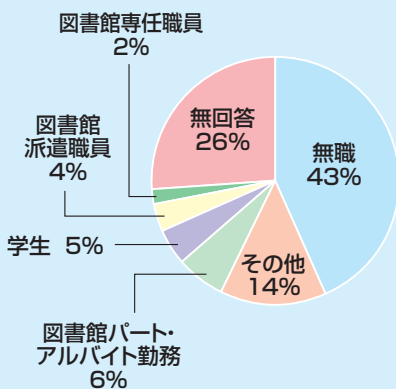
### 年齢別データ



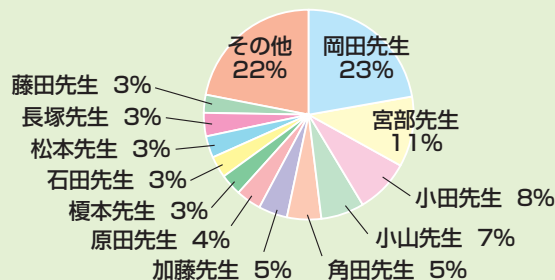
### 出身県別データ



### 職業別データ



### 印象に残った講師(複数回答)



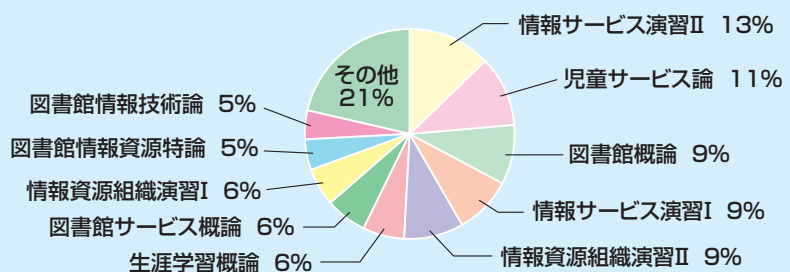
#### ●主な理由

- 岡田先生 … こちらのペースに合わせて授業をすすめてくれたので、ノートもとりやすくわかりやすかったです。
- 宮部先生 … 講習が始まるにあたってガイダンスがあり、進め方等が分かり易く明確であった。内容に入っても丁寧で、安心して受講出来た。
- 小田先生 … 内容が耳や頭に入りやすく、飽きさせない講義構成で、毎時間あつという間に終わってしまいました。
- 小山先生 … 基本用語を中心に徹底的にたたき込まれた感じがします。授業内容にメリハリがあり、楽しみながら勉強ができました。
- 角田先生 … 授業中に身についた、理解したという感覚をこの授業で初めて味わったような気がする。
- 原田先生 … 厳しかったですが、先生はプロフェッショナルだと実感しました。
- 榎本先生 … 目録の授業の内容や進め方など、はきはきと講義をしていただき、とてもわかりやすかったです。

### 感想

- とてもキツく、苦しい講習でしたが思えば一瞬だったように感じます。有意義な時間を過ごすことができ、司書講習を受講して良かったと思っています。
- 念願だった司書講習に参加させていただき、とても感謝致しております。授業の進め方など全く知らなかったのに、思った以上にハードでついていけるか心配でしたが、皆に助けてもらいながらなんとかこの講習で学んだことを糧に、実際の仕事につなげていけたらと思います。
- OA 研修室での授業では、先生の操作している PC 画面が見れるディスプレイが設置されていたので、受けやすかったです。
- 司書講習を開いていた、ドキュメンテーション学科があることもあり、図書館には参考資料が充実していました。選書ツアーやキャリア支援もあって、学生がうらやましいです。
- 図書館や OA 研修室はもう少し開館時間を長くしてほしい。
- 空調の調整が悪かった。
- 人生の中でこれほど図書館に通って勉強することはなかったので、本当に 1 つ 1 つのレポートをこなしていくのは大変でした。しかし講義の折り返し地点から実際にたくさんの本に触れ、知らなかった本ばかりで楽しくなりました。志を同じにする幅広い年齢層の方々とお出会えたこと、60 周年という節目でこのような機会を頂けたことに感謝の思いでいっぱいです。
- 今後は現場に即した課題や問題点、最新の話題や取り組みなどの講義を受講したい。

### 印象に残った科目(複数回答)



#### ●主な理由

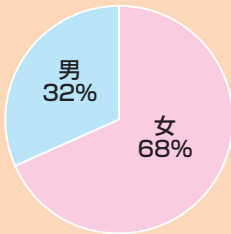
- 情報サービス演習II … 演習の課題がとにかく多くて、提出期限に間に合うのか不安でした。実際に自分でレファレンスを行うのは簡単じゃないということが良くわかりました。
- 児童サービス論 … 講義と共にビデオ等で事例がたくさん見られ、視野が広まった。目指そうと思えるライブラリアン像に出会うことができた。
- 図書館概論 … 図書館には何が必要なのか、外国の図書館についても様々な話が聞けたので、その後学ぶのが楽しみになりました。
- 情報サービス演習I … ここでしっかり検索の仕方を憶えなかったら、情報サービス演習IIでできない問題があった。この講義を思い返すことが多かった。
- 情報資源組織演習II … 実技的な演習でわかりやすく、実務に役立つと思ったから。



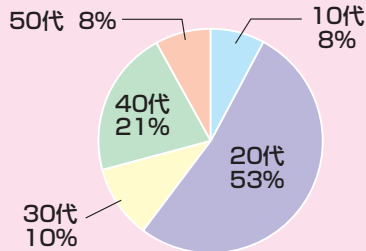
# アンケート

## ◆平成26年度司書補講習アンケート集計結果◆ (回答数/受講数=25名/38名)

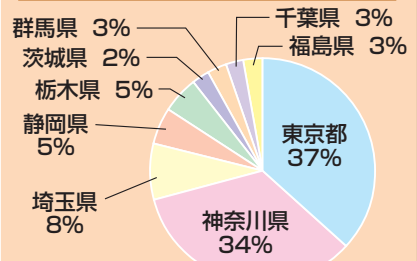
### 男女別データ



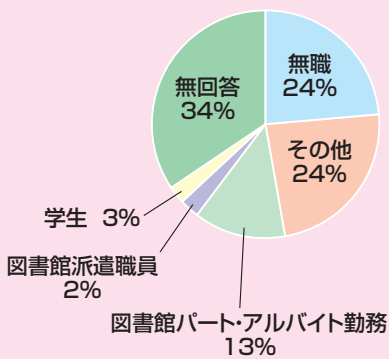
### 年齢別データ



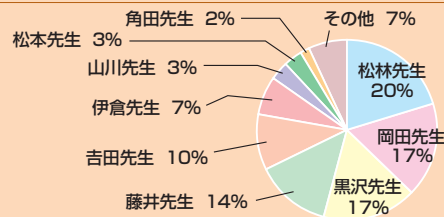
### 出身県別データ



### 職業別データ



### 印象に残った講師(複数回答)



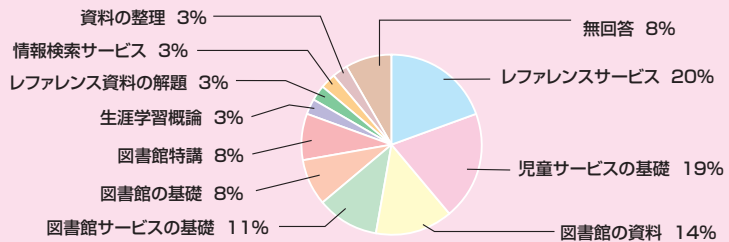
#### ●主な理由

- ・松林先生 … 試験の後に解説をして下さり、時間の限りがある中で先生の真摯さを感じました。
- ・岡田先生 … 丁寧な講義でも分かりやすかったです。質問も遠慮なくしていいとおっしゃって下さり、安心して講義を受けることができました。
- ・黒沢先生 … 授業の内容がおもしろく、常に笑っていた気がします。実際に絵本を使って読んでくれたり、ゲームみたいなのをしてくれたり、とにかく先生の人柄がよかったです。
- ・藤井先生 … 最初の授業で不安でしたが、やさしそうな人柄が出たお話の仕方です。安心してできました。
- ・吉田先生 … 図書館員のあり方を熱心に教えて下さったのがとても印象的でした。興味を引く楽しい講義でした。
- ・伊倉先生 … とてもやさしく教えてくれ、図書館でお会いした時は「がんばってますね」と声をかけられ、励みになりました。

### 感想

- ・先生方は、人間としてもとても魅力的な方ばかりで、講習が終わり会えなくなってしまうのはすごく残念です。
- ・今回の受講にあたり、授業について行けるだろうかなど、とても不安でした。しかし、毎日先生方から教えていただくことは、自分の知らないことが多く、それは自分を磨くことだと気づきどんどん吸収していきたいと思えるようになりました。
- ・図書館にはたくさん本があり、PCの数も多くて助かりました。敷地の広さにも内心ワクワクしました。
- ・全体的にはとても勉強になったが、先生によって授業内容に差を感じた。
- ・PC初心者講習は先生のお人柄が良かったおかげで、日々の授業で疲れていても楽しく受講できました。
- ・図書館における状況や環境は常に変っていくと思うし、多くの知識を備えたいので、上級講座も是非受けたいです。
- ・空調の調整が悪かった。
- ・警備の方々や事務室の皆さんが、顔を合わせるいつも気持ちの良いあいさつをして下さったので嬉しかったです。

### 印象に残った科目(複数回答)



#### ●主な理由

- ・レファレンスサービス … 働いていてもなかなかレファレンスを行うことがないので、実演をじっくり行えて、ためになりました。
- ・児童サービスの基礎 … 体験談などを交えた講義はおもしろかったです。仕事でも児童サービスにかかわりたいと思いました。
- ・図書館の資料 … 今まで知らなかった古典籍の世界は奥深く楽しかったです。
- ・図書館の基礎 … 一番最初の授業で、幅広く様々なことを学べた。

## 《司書・司書補講習60周年記念式典、講演会》

鶴見大学の司書・司書補講習は昭和29年(1954)に開講し、今年度で60周年を迎えました。最終日の9月13日に記念式典・講演会を行い、講習の歴代講師をはじめ、今年度の受講生、学内外関係者など、多くの方にご出席いただきました。

式典では、来賓の文部科学省生涯学習政策局生涯学習総括官 藤野公之様、公益社団法人日本図書館協会副理事長 山本宏義様に御祝辞を頂き、講演会では文部科学省生涯学習政策局社会教育課長補佐 高橋陵子様、公益社団法人日本図書館協会専務理事 西野一夫様に御講演を頂きました。式典終了後は祝賀会も行い、大盛況のうちに幕を閉じました。

本学司書・司書補講習は、これまでの歴史と数多くの優秀な修了生を誇りに今後ますますの発展を期して努力してまいります。

